

会議所8月の動き

- 2日(日) ・越後の酒天湯子「月の夏まつり」
- 3日(月) ・建設専門部会役員会
- 4日(火) ・勸新発田市まちづくり振興公社賛助
会員協議会
- 5日(水) ・第1回新発田市行政改革推進懇談会
- 6日(木) ・轉しばたショッピングセンター店舗
運営管理協議会
・新発田地域産業保健センター運営協
議会
- 7日(金) ・新発田市にぎわい商品券推進委員会
・城下町新発田まつりパレード 第2回
参加者会議
- 10日(月) ・安兵衛太鼓保存会総会
- 11日(火) ・常議員会・臨時議員総会
- 12日(水) ・城下町新発田まつり海上花火
- 19日(水) ・台輪連絡協議会
- 20日(木) ・勸新発田市まちづくり振興公社理事
会・評議員会
- 21日(金) ・新発田市測量設計業協同組合設立式典
- 25日(火) ・技術シーズプレゼンテーションin新
発田交流懇談会
- 26日(水) ・城下町新発田まつり よさこいしばた
- 27日(木) ・城下町新発田まつり 民謡流し
- 28日(金) ・城下町新発田まつり まつりパレード
- 29日(土) ・城下町新発田まつり 帰り台輪

流行ものから 見えるもの

『小説』「IQ84」と学習参考書が大人気

―不況に負けない強さのヒミツは―

昨今、長引く不況や売り上げ不振の影響をモロに受けている一つが、出版業界だろう。全体の市場規模は一九九七年の約二・五兆円から徐々に減り続け、二〇〇八年にはついに二兆円にダウン。今後、まだまだ冬の時代は続くといわれている。

そんな中で、二〇〇九年上半期に絶好調の売り上げを見せたのが、村上春樹氏の新作『「IQ84」(新潮社)。上下巻を合わせて、

この夏までに約二百万部(四十億円弱)という大ヒットを示した。中核となる読者は、かつての全共闘世代にあたる中高年のファンや、口コミで評判を知った読書好きのインテリ層だという。

また、同書の陰に隠れてあまり目立たないが静かなブームを呼んでいるのが、何と中学・高校の「政治・経済」関連の参考書や「日本史・世界史」の教科書など。こちらの読者も、なぜ

か四十代以上のビジネスマン。特に見やすい「年表入り」のものが人気だという。

出版界の救世主ともいわれるこれらの本のヒットの背景には、どうも二つの心理が働いていそうだ。

一つは、将来への展望を失った世代が近い過去への回顧を求め始めたことだ。IQ84の舞台は、あのバブル前夜の混とんとした日本の大都会。まさに今の熟年層が青春を過ごした舞台でもある。

政治・経済・歴史本の人気も同じ。不況突破の糸口を考えるためにも、過去(とくに近代から高度成長やバブル前後)の時代の流れを鳥瞰(ちようかん)してみたいという知的欲求を強めた人びとが増えたため

かもしれない。

もう一つの理由は、会社の業績悪化や所得ダウンで小遣いの減った中高年が、趣味として読書の魅力を再認識したことだろう。「自宅」に居ながら「安い価格」で「長時間」楽しめ、しかも「知識・教養磨き」や「自分探し」もできる読書は、もってこいの大人のレジャーである。

こうしたトレンドから見てくる不況脱出のキーワードは、消費者の「知的欲求」を満たし「割安感」のある「家庭内消費」向けの商品群かも。「流行りモノ」は、いつの時代も経営成功に欠かせない参考書や生きた教科書であるようだ。

NML野村オフィス

代表 野村 正樹